

# 令和5年度 青森県 英語教育改善プラン

## 目標

本県児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう、小学校教員の英語力・指導力向上に取り組むとともに、学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握状況の改善を図る。

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ①・・・目的や場面、状況を設定し、言語活動を通して指導する教員が増えている。
- ②・・・学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合が増加した。  
R3 50.6%→R4 60.7%

#### 未だ改善が必要な点

- ①・・・外国語教育における小中連携の推進  
R3 63.1%  
R4 59.9%
- ②・・・学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握のさらなる改善  
R4 設定76.3%(R3 77.8%)  
公表20.6%(R3 7.3%)  
把握60.7%(R3 50.6%)

### 2. 分析

- ①・・・県内全小学校を対象に、小学校外国語活動・外国語科担当教員等研究協議会を開催したことにより、授業改善への理解が深まった。
  - ②・・・Aomori English Model単元計画シートを県内全域に周知し、その活用を促進した。
- ①・・・新型コロナウイルス感染症の影響とともに、指導方法や指導内容の共有が十分なされていない。
  - ②・・・学習到達目標を設定し、授業づくりを行うことに対する理解が不十分である。

### 3. 施策・事業

- ①・・・小・中学校外国語教育充実支援事業を継続して実施し、以下の施策に取り組む。
  - ア 小学校外国語活動・外国語科担当教員等研究協議会を県内6地区で開催し、Aomori English Model単元計画シートを活用した授業づくりについて講義・演習を行う。
  - イ 小学校外国語教育充実支援訪問を実施し、上記協議会の内容が反映された授業づくりが確実に行われるよう指導・助言する。
- ①・・・小、中及び高等学校における外国語活動・外国語科の授業改善及び学校間連携が進められるよう、小中高外国語教育充実検討委員会を開催する。
- ②・・・専科教員に「先導的なオンライン研修実証事業」への参加を促進する。  
R5 10名 R6 15名 R7 20名

# 令和5年度 青森県 英語教育改善プラン

## 目標

本県生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう、中学校教員の英語力・指導力向上に取り組むとともに、学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握状況の改善を図る。

### 1. 現状

改善が進んだ点

- ①・・・学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合が増加した。  
R3 46.3%→R4 68.0%

未だ改善が必要な点

- ①・・・外国語教育における小中連携の推進  
R3 63.1%  
R4 59.9%
- ②・・・学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握のさらなる改善  
R4 設定98.0%(R3 94.0%)  
公表34.0%(R3 18.8%)  
把握68.0%(R3 46.3%)
- ③・・・CEFR B2以上の取得割合  
R4 28.9%(R3 27.5%)

### 2. 分析

- ①・・・ブリティッシュ・カウンシルと連携し、県独自の英語教育推進教師の育成に取り組むとともに、Aomori English Model単元計画シートを県内全域に周知し、その活用を促進した。
- ①・・・新型コロナウイルス感染症の影響とともに、指導方法や指導内容の共有が十分なされていない。
- ②・・・学習到達目標を設定し、授業づくりを行うことに対する理解が不十分である。
- ③・・・日常的に自身の英語力に磨きをかける機会や意識を創出する必要がある。

### 3. 施策・事業

- ①・・・小・中学校外国語教育充実支援事業を継続して実施し、以下の施策に取り組む。
  - ア AOMORI中英ネットワークショップを開催し、大学教授による4技能についての講義やAomori English Model単元計画シートの活用について県内の全英語担当教員に発信する。
  - イ 中学校外国語教育充実支援訪問を実施し、上記ワークショップの内容が反映された授業づくりが確実に行われるよう指導・助言する。
- ①②・・・小、中及び高等学校における外国語活動・外国語科の授業改善及び学校間連携が進められるよう、小中高外国語教育充実検討委員会を開催する。
- ③・・・専科教員に「先導的なオンライン研修実証事業」への参加を促進する。  
R5 30名 R6 30名 R7 30名

# 令和 5 年度 青森県 英語教育改善プラン

## 目標

本県生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう、高等学校教員の英語力・指導力向上に取り組むとともに、学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握状況の改善を図る。

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

①・・・ CEFRB2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合は、目標値に近い水準を維持している。  
R2 80.0 % → R4 90.9%

①・・・スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合  
R4 29.9%

目標値 70%

②・・・英語担当教員の授業における英語使用状況  
R4 29.9%

目標値 55%

③・・・求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合  
R4 46.9%

目標値 50%

#### 未だ改善が必要な点

### 2. 分析

①・・・これまでの指導力向上に係る研修会と民間試験を利用した自らの英語力を高める機会を有効的に活用したことが反映されている。

①・・・指導方法や評価問題作成に係るノウハウの共有が十分なされていない。

②・・・学習指導要領に基づいて、学習到達目標を設定し、授業づくりを行うことに対する理解が不十分である。

③・・・日常的に自身の英語力に磨きをかける機会や意識を創出する必要がある。

### 3. 施策・事業

①・・・英語担当教師の指導力・英語力の向上を継続して実施し、以下の施策に取り組む。  
ア スピーキングやライティングなどのパフォーマンス評価、指導・評価の一体化について大学と連携し、協議会を年 6 回開催する。  
イ 高等学校外国語教育充実支援訪問を実施し、上記ワークショップの内容が反映された授業づくりが確実に行われるよう通年で指導・助言する。

①②・・・小、中及び高等学校における外国語活動・外国語科の授業改善及び学校間連携が進められるよう、小中高外国語教育充実検討委員会を開催する。

③・・・英語教員に「先導的なオンライン研修実証事業」への参加を促進する。  
R5 30名 R6 40名 R50名